

板橋区基本構想審議会 要点記録

会議名	第7回板橋区基本構想審議会
開催日時	令和7年2月5日（水）午後6時から午後8時まで
開催場所	板橋区役所 4階 災害対策室
出席者	〔委員〕28人（敬称略） 内藤二郎（会長）、岸井隆幸（会長代理）、大塚隆志、木村政司、許俊鋭、槌田博文、野澤祥子、相田義正、榎本藤二、加藤勝一、川上貴男、小林英子、齊藤得彌、関口雅美樹、高田修一、福司慶子、望月由佳、木村縁理、辻内孝昌、濱崎希歩、田中やすのり、しば佳代子、おなだか勝、小林おとみ、佐々木としたか、鈴木こうすけ、尾科善彦、長沼豊（欠席：3人） 〔幹事〕14人 田中総務部長、三浦危機管理部長、平岩区民文化部長、家田産業経済部長、水野健康生きがい部長、鈴木保健所長、丸山福祉部長、関子ども家庭部長、岩田資源環境部長、内池都市整備部長、田島まちづくり推進室長、宮津土木部長、林教育委員会事務局次長、雨谷地域教育力担当部長（欠席：1人） 〔事務局〕小島政策企画課長、遠藤経営改革推進課長、大森財政課長
会議の公開 （傍聴）	公開
傍聴者数	1人
議題	1 政策分野別の検討⑤ （1）都市づくり分野 （2）区政経営・地域コミュニティ 2 その他
配付資料	1 板橋区基本構想審議会工程表 2－1 【都市づくり分野】政策分野別検討シート 2－2 【都市づくり分野】板橋区基本計画2025等の進捗状況 2－3 【都市づくり分野】政策分野別検討シート（データ編） 3－1 【区政経営・地域コミュニティ】政策分野別検討シート 3－2 【区政経営・地域コミュニティ】政策分野別検討シート（データ編）
政策企画課長 会長	開会 ただいまから、第7回板橋区基本構想審議会を始めさせていただきます。初めに会長から一言ごあいさつを頂戴する。 本日の議論をもって、政策分野別の検討が終了する。次回最終検討し、中間報告の取りまとめという段取りになるので、引き続き、よろしくお願いします。 （政策企画課長から、傍聴の有無の報告、資料の確認。以降、会長進行）

	1 政策分野別の検討⑤（都市づくり分野、区政経営・地域コミュニティ） （政策企画課長から、資料2-1～2-3について説明）
会長	都市づくり分野について、ご意見を伺う。
委員	都市づくりについて、5つの観点があると思う。1つ目は、脱炭素なども含まれるが、美しい景観、誇れる文化財を維持したまちづくり。2つ目は、多様な世代が集まり、人と人が？縁で繋がる場所をつくること。これが居心地のよさにも繋がると思う。3つ目は、地域住民による自発的・主体的なまちづくり。4つ目は、学生のパワーでまちを活性化すること。5つ目は、ユニバーサルデザインを考え、互いの違いに気づき、思いやりの心を持つこと。このあたりを考えると、施策のあり方の表現が固く感じる。例えば、2番目「板橋の魅力を活かした特徴際立つまちづくりの推進」とあるが、どのような特徴を指しているのかが見えないので、もう少しわかりやすくできると良いと思う。
会長	特徴は、具体的に示した方が良い。「移動環境」などの表現もわかりにくい。
委員	先日、都市づくりビジョンの素案が、都市計画審議会に提示された。都市づくりビジョンにおけるまちづくりの方向性は、「持続可能な未来を“ひと”と“みどり”とともにつなぐ都市づくり」と、人と緑にフォーカスを当てている。ビジョンは、ハード面として「生活の舞台となる都市空間の整備」、ソフト面にも触れられ、「人の力を生かした都市活動の取組」としている。 資料記載の施策のあり方は、ハード面に偏っている。まちづくりにはソフト面も重要であり、あるべき姿には、ひとの視点もあるので、施策の方向性にも、人と人がつくり出すまちづくりというような視点を入れていただきたい。例えば、2番目「板橋の魅力を活かしたまちづくり」は、歴史や文化、緑を指すのだろうが、人を主軸とすると、「回遊や滞留を生むまちづくり」、1番目の「身近な暮らしで緑を感じられる魅力的で心豊かなまちづくりの推進」は、「緑により人が出かけたくなる仕掛けのあるまちづくり」などになると思う。
委員	最近八潮市の道路陥没のニュースが話題になっているが、50年以上使われているインフラが、どのような状態になっているかをチェックしなければならない時期に来ている。区はチェック機能含め、どのようにリスク管理をしているのか。
土木部長	道路の下に空洞がある場合、陥没が発生する。平成25年から平成27年の間、道路を選定し、109キロメートルにわたって空洞調査を実施した。今年度から令和8年度にかけて、また同じ路線を調査している。 財政的に余裕のある都心区は、毎年調査ができていますが、都心区以外の周辺区は、何年かかけて調査を行っている状況である。
会長	資料では、安心・安全が、交通網や道路、橋などに限定されているが、道路陥没のような事故はいつ、どこで起こるかわからないことであり、様々な面を整えられるようにする必要がある。
委員	電線の地中化は、美観という点では良いが、災害時に復旧に時間がかかるようだが、

	区はどのように考え、進めているのか。
土木部長	幅員があり、歩道が確保できていると、比較的容易に工事ができることもあり、区内の国道は9割以上、都道は5割弱の電線が地中化されているが、区道は1%も進んでいない。災害時には、物資を運搬するという視点もある。そういったバランスや復旧状況に鑑みて進めていければと考えている。
委員	ハード面に偏った内容になっており、ソフト面も充実した内容になると良い。 また、気候変動関連として、資料2-1の3の1(2)に、グリーンインフラの推進とあるが、あるべき姿・施策のあり方にうまく表現できていない。重要な問題であるので、ゼロカーボンシティであることも踏まえ、ミティゲーション、削減、適応対策にしっかり取り組むことが見える内容になると良い。 気候変動とユニバーサルデザイン、人流にも関連するが、資料には、「歩きたくなるまち」などの表現もあるが、歩くことが人々の生活の基本にあるので、「交通環境」「移動環境」ではなく、「歩く」などの平易な言葉にした方が、多くの方にわかりやすいと思う。
会長	安心・安全な、交通環境・移動環境については、安心・安全の対象を広げていくという意味からも工夫が必要である。
委員	資料2-1に「まち歩きや自転車利用を楽しみ」とあるが、資料の2-3を見ると自転車事故が急激に増えていることがわかる。自転車に対する対策が検討されているようだが、電動モビリティについても、これからますます事故が増えることが懸念されるので、対策が必要となると思う。 また、道路が狭いなどの事情により、区内はコミュニティバスが1路線しか運行していない。最近、他区において、グリーンスローモビリティが導入されているが、区でも、施策のあり方に追加し、10年間で研究し、導入できると良い。 資料の2-2に補助87号、173号は事業完了、249号は順調とあるが、「利便性の高い都市計画道路」の進捗状況が停滞となっている理由を伺いたい。
都市整備部長	都市計画道路は、10年ごとに、優先整備路線を決めて整備している。区道と対応する都市計画道路をいくつか定めているが、ほとんどの道路事業として入っていない実情を踏まえ、停滞とさせていただいている。
会長	これから10年でさらにいろいろなものが出てくることが想定されるので、歩行者の安全を保障するため、ルールの再確認や啓蒙も必要になる。
委員	資料2-1にあるグリーンインフラの水は、河川のことが書かれている。高島平は、駅前に水が通っていないが、滝や噴水、赤塚公園にも噴水がある。 水には癒しの効果もあるので、施策のあり方の「身近なくらしで緑を」は、緑だけでなく「緑と水」とし、様々な人が癒されに来ていただけるようになると良い。
委員	都市づくりというと壮大なスケールの印象があるが、そのような施策があまり書かれていないと感じた。好きなまち、誇れるまちとなることを考えると、まずは、特徴は何かという議論をし、それを際立たせるために、どのようなアプローチをするかを考

	えなくてはならない。
	また、外から人を呼び込む観点がない。これからの区を考えると、インバウンドや、他区に住む方に板橋に行こうと思ってもらい、多くの人が訪れるようになると良い。そこでも区の特徴をどう際立たせるかが重要である。
会長	それでは、ブレーンストーミング的に区の特徴を自由に出していただきたい。
委員	加賀藩の下屋敷があったことは、すばらしい観光資源である。加賀公園が整備され、区内には加賀藩にまつわるものが至る所にある。そういった歴史を知らない住民も多いが、宿場町が観光地として栄えているところもあるので、それらをうまく使い、外からも人が呼び込めるようになると良い。
	また、都心へのアクセスとして鉄道が東武東上線と三田線の2本通っているが、それぞれの路線を繋ぐ交通網を整備することも重要である。区外から訪れた人も区内の様々な場所に行くことができるようになる。
	資料2-1の3の2(3)に、「東武東上線の立体化と沿線の都市基盤整備の促進」とあるが、三田線の高島平駅周辺まで含んだ高島平の再開発も進んでいるので、高島平の再開発についても触れてはどうか。
委員	スポーツ大使や坂東弥十郎さん等の観光大使など、キャラクターを売り出すことも1つの手である。
委員	スポーツ大使で、パリ五輪メダリストの江村美咲さんなど、区内在住の著名な方と連携することで、若い人の関心を引くことができるのではないか。未来は、若い人が作ってくれるので、歴史なども非常に重要だが、スポーツや文化など若い人が関心を持てるものを活用すると良いと思う。
	板橋交通公園のサーキットのように、簡易的な子どもが楽しめるスポーツ施設などを考えて、区に興味を持ってもらえると良い。
委員	オリンピック競技にもなっているスケートボードは、興味を持ってもできる場所がない。赤塚公園は、高速道路の横に位置し、使っている人が少ない公園であり、騒音問題にもなりにくいので、アーバンスポーツフィールドのようなものを作ると、若い人が訪れ、オリンピック選手なども出るかもしれない。
委員	高島平団地は、築50年近く経ち、若い人の入居が少なく、ほとんどが高齢者や外国人である。高島平の再開発については、早急に具体化し、高層ビルやホテルなど魅力ある施設を誘致し、若い人が高島平に訪れるようになると良い。
	また、区内に懇親会などができる施設もないため、近隣区で開催することとなる。これからの若者のためにも、そのような施設を誘致していただきたい。
会長	区がハードをつくるというより、魅力ある区となり、おのずと民間が参入してくれるサイクルをつくるため、魅力を創出することが必要である。
	高度経済成長期にできたニュータウンは全国で課題となっており、高島平が成功例になると、様々なところに対する発信元となる象徴的な事業になると思う。
委員	区の最大の特徴は、医療資源が非常に多く、物価が安く、福祉が充実しているところ

	ろだと思う。民間企業における全国調査において上位に入り、住みやすい、子育てしやすいと評価されている。区内にたくさんの医療機関があるところ活かし、子育てや安心できる生活と医療との連携することが可能だと思う。この特徴を基本構想・基本計画に取り入れ、発展させていけると良い。
会長	みなさんに上げていただいた特徴は、すでにこの審議会で議論してきたことであり、特に活かしていけそうな象徴的なものをわかりやすい表現に変え、繋げていく必要がある。
委員	私は、区民ではないが、板橋に住んでみたいと思っている一人である。うらやましいと感じるところは、地域ごとに地域センターやプールが併設された体育館などの公共施設が充実しているところである。ほとんどの施設が、予約が取れないほど活動が活発であり、区民の連携が進んでいると感じられる。 一方、緑は多いが、緑の活用については、物足りなく感じる。人の動きは十分にあると思うので、様々な施設に横のつながりを持たせることで、さらに魅力を創出できると思う。
委員	一里塚や川越街道の五本けやきなど、板橋にしかない特徴をPRできると良い。
委員	稲荷台小学校（現：加賀小学校）の敷地から、稲荷台式土器が発掘されている。稲荷台縄文人が住んでいたという歴史も1つの特徴になると思う。
委員	文化・国際交流財団が毎年開催する、区民300人による板橋第九演奏会は長く続いており、特徴になると思う。
委員	川沿いで、かわまちづくりが進められているが、その内側にある大きな水路を再開発し、商業地域にしたり、荒川に抜ける通路にしたりできると人の流れが生まれ、区の魅力がさらに増すと感じた。
委員	火薬製造所跡地は、旧加賀藩の下屋敷にある中山道沿いの史跡で、理化学研究所の西田研究室があり、湯川秀樹や朝永振一郎が研究していた物理学の聖地で、貴重な場所である。 また、大山商店街は、とても活性化しており、みんなが行きたくなるいい商店街があるので、売り出さない手はないと思う。
委員	特徴を考える上でも、どうすれば若い世代に移住をしてもらえるかを検討する必要があると思う。うまく発信することで、文化や歴史建造物は、観光資源になるが、移住や定住には繋がりづらい。ショッピングモールなど、そこに行けば、買い物や飲食ができるところに若い人が集まる傾向があるが、区内にはそういった施設が少ない。また、他区には、夜暗くなっても、人が集まりたくなる工夫がされている公園がある。区内にも緑が多く、魅力的な公園があるが、夜間は行きづらいので、時間を問わずにいつでも仲間と集まって遊べる空間をつくる必要がある。 また、まち全体で利便性を高めていく必要がある。今再開発が各所で進んでいるが、その地区だけが開発されているように見える。駅周辺が1つに繋がるようなネットワークを形成していくことが重要である。他区では、1つのエリアが1つのまちとして

	の機能を果たすよう検討されている。そういった機能がそれぞれの地区にあると、住む場所として選ばれることに繋がると思う。 次に、区民が日常生活の中で気づいたことを気軽に区と共有できるシステムづくりが不可欠だと思う。八潮市の道路陥没も道路にひびがあったと言われているが、区民が区とのネットワークを使って、お互いに良いまちにしていける環境づくりも必要だと考える。
会長代理	都市づくりは、これまで議論してきた他の8つの分野と連携してこそ価値が上がると思う。これまで政策分野別に整理してきたが、各部で進めればよいのではなく、部が連携してやってこそ価値があるというメッセージと、その強い意思をぜひ職員の皆さんで共有していただきたい。各部の中で止まっている限り、区としてはあまり意味がないと思う。
会長	多くがすでに議論してきたことであり、それをいかに活かしていくかということであった。だからこそ、部署を越えて、都市づくりに活かしていく必要がある。横の繋がりに関する意見があれば、反映できると良い。いただいた意見を今後の検討に活かしていきたい。たくさんのご意見に感謝する。 それでは、都市づくり分野については、ここまでとし、次に区政経営・地域コミュニティについての議論に移る。 (政策企画課長から、資料3-1～3-2について説明) これまで議論してきた分野別の内容を、いかに区として実現していくか、区全体、地域の連携によって、区の中でどのように動かしていくか、そのために何が必要かという視点から見ていく分野となる。区の姿勢や組織、体制なども含め、区がどのように取り組んでいくか、その方向性についての議論となる。 また、区が基本計画に反映させるため、審議会から、基本計画に盛り込むべきことを具体的に意見できると良い。それが、答申で一番重要な点となる。それでは、ご意見を伺う。
委員	子育てについても触れていただきたい。8番目に「子育て・教育環境の一層の充実」という方向性で、「すべての子育て家庭が安心と喜びを実感しながら、子どもを産み、育てられるようなあたたかいまちをめざして、子育て支援を推進します。」という内容で追加してはどうか。 次に、シティプロモーションの推進について、次の10年間に、区制100周年が到来する。なかなか関わるできない100周年という節目に、一区民として、今からとてもわくわくしている。全区民が楽しめるような100周年を踏まえた区政経営を希望する。 また、所感であるが、採用倍率がどんどん下がっている中、入庁した若い職員に、ありがたいと感じる。
委員	1点目、役所仕事に堅いイメージがあることが、人材が民間に流れることに繋がっていると思う。採用に特化した内部がわかるような特設ページや資料を作成、職員の

	服装の規定を緩和し、ラフさ、やわらかさを出してはどうか。 2点目、公共施設について、区役所は、板橋地域の中で独立しているような印象がある。区役所をはじめとした一帯が1つのまちになっている自治体や、庁舎の下が商業施設になっている自治体もあり、区役所に行く目的がなくても、その周辺に行きたくなくなるまちづくりが進んでいる。地域センターなどに複合的施設を併設すると、コミュニティの形成にも繋がると思う。 3点目、区は、シティプロモーションが弱いと感じる。他区のキャラクターは、トレードマークになり、グッズ化し、パンフレットに載るなど活躍している。その点、りんりんちゃんを見る機会は少ない。プロモーションシンボルを活用し、グッズの販売や、プロモーションサイトの作成、事業者と連携しながらPRすることで、区がもっと見える化され、楽しいまちになっていくと考える。
会長	取組の方向性に、人づくり組織づくりとあるが、人材育成をきちんとすると区民に訴えるだけではなく、区役所の仕事の魅力ややりがいを発信し、区で活躍したいと思う人が出てくるための取組も重要である。 また、魅力ある区役所及びその周辺が親しみやすくなると、区役所で働く人も、ゆったりと明るく元気に働ける環境となる。開かれた区役所を発信することが、シティプロモーションにも繋がる。
委員	(8)その他・新たな視点に関連するが、DXについては、自治体間競争の観点からも積極的に取り組む必要があるが、区民とのコミュニケーションや互いの連絡網を途切れさせず、区民が同じように利用できるよう、区民とともに進化していくことが重要になる。 それから、EBPMについて、エビデンスの活用は重要であり、区が持つ情報や統計データを公開し、区民が使えるようにし、将来的に区が政策立案や事業計画を立てるときに、区民と一緒に作るシステムを構築する必要がある。
会長	DXの推進や情報提供について、吟味も含め、区民をうまく巻き込み、区民に浸透させ、区民に動いてもらうようにすることが重要である。
委員	人づくり、人材育成に関連して、保育や土木など、現場を守っている職員がいて、そういった役割もあることが、きちんとわかるようにしていただきたい。 次に、公共施設の再編整備について、これから少子化、人口減少に向かう中で、施設等は縮小していく動きがあるが、住民の声をよく聞いて進めていただきたい。 そして、資料3-2の図表11に公共施設等準備基金が令和16年には枯渇するとある。こちらは、基金の積立方針の一部を切り取った資料であろうが、現物の資料には、この期間中に一切基金を積まなかった場合を想定しているという注意書きがある。今年度だけでも100億円ほど積んでおり、誤解を招く資料だと感じた。
会長	資料については修正させていただく。 開かれた区として、区役所のプロモーションも行うことで、職員のやりがいに繋がる効果もある。

委員	1 点目、統合的なアプローチの必要性和それに取り組む覚悟がこの資料からは読み取れないと感じた。大変なことは承知しているが、ご検討いただきたい。 2 点目、計画の実施に関する柔軟性と関連して、新たに政策立案する際だけでなく、10 年の間に見直しをする際も E B P M の原則を順守することが重要であるので、それについても明示すると実効性に繋がると考える。 3 点目、シティプロモーション戦略は、今から 10 年前に策定された。ターゲット層を 30 歳から 44 歳の女性としたことは、当時は実情に合っていたのだろうが、これまでの審議会でも、若い人に住んでみたいと思ってもらわなければならないという議論をしてきた。目的によってターゲットは変わるはずなので、丁寧にターゲットを設定してはどうか。
会長	4 点目に、女性の活躍や男女共同参画という表現は、古いと感じる。このような文言が出て 20 年くらい経っており、今の時代は、多様性、ジェンダーの方など、あらゆる人たちが社会参画できることが前面に出るべきであり、女性の活躍はもちろんのこと、さらにその先、という形で打ち出せると良い。
委員	区の実践として、向こう 10 年にいろいろなことが変わるので、機動的で柔軟な対応をしていくということも明示しても良いと思う。
	女性の活躍、男女共同参画については、私も同意見である。
委員	6 番目「地域コミュニティの活性化」について、N P O ボランティアに注目している。区を良くするため、社会課題を解決するために、こういった活動に参加する動きが増えてきている中、資料の 3 - 2 の図表 21 の N P O 団体の推移は、100 団体から 90 団体と 10 団減少しており、原因分析が必要である。こういった団体が活性化すると、区の課題解決をする人が集まり、もっと良くなる。ボランティア登録者数は横ばいであるが、ボランティア登録者数も N P O 団体数も右肩上がりになると、区の活性化に繋がると思う。
会長	ボランティアや N P O については、区が、具体的に何ができるのか役割が難しいが、事例から学び、区の実践にも反映させることが重要である。
委員	「公共施設等の整備に関する基本方針」に基づいた公共施設の再編・整備、また、D X を進めることは重要だが、区民の状況など？と乖離しないよう、よく考えて進めていかなければならない。 また、個人情報の取扱いが厳格化されているが、福祉や医療においては、場合によって、個人情報をうまく共有できるようになると良い。 公共施設の再編・整備については、本庁舎から離れた施設も多い。I C T 化を進めて利便性を向上させ、コンビニで手続きが可能になっても、対面で相談を受けなければいけない場面もある。高齢者が車椅子に乗っても行けるよう、本庁舎を中心とし、区全体で利便性を考え、公共施設の建築、再編を進めていただきたい。 一方、各地区にある、地域センターや支え合い会議は区の誇るところである。 また、「ポスト S D G s」とは何を指すのか教えていただきたい。

政策企画課長	S D G s は、2030 年をターゲットとしたゴールであり、次の基本計画の計画期間の間に目標年次が到来するので、それ以降も発展的に対応していく必要があると考えている。まだ具体的な内容や文言等が示されているものではないが、そういった視点を取り入れていく必要があるということを表現したものである。
会長	公共施設については、民間企業や指定管理などの問題もあるが、区の立場と利用者の立場を考慮し、配置をうまく行い、動線を考えることも重要である。
委員	7 番目について、多様性やユニバーサルデザインについては、区民検討会でもかなり意見が出ており、区民もそういった視点の必要性を認識しているのだと思う。D X を進める一方、ユニバーサルデザインで誰でもアクセスしやすい環境を確保しないと、情報格差が生じてしまうので、そういった視点を取り入れる必要がある。
会長	7 番目は、必ずしもジェンダーにこだわらず、多様性として、その中にジェンダーやユニバーサルデザインの問題も含むという構成にした方が、より広範囲を網羅でき、わかりやすいかもしれない。
委員	7 番目の女性の活躍について、区は、女性がDVに遭った時の支援を迅速に行っているが、DVに関する相談が絶えない状況であるので、配偶者からの暴力防止として研修など、男性に対するアプローチも取り入れていただきたい。
委員	資料3-1にあるように、町会・自治会の加入率の低下が課題となっている。地域コミュニティが衰退すると、個人や家庭の単位で解決することが難しい問題が、深刻化する。課題に地域全体で対応し、困難を緩和することが、地域コミュニティの重要な役割である。 また、地域コミュニティは防災訓練の実施、住民の防災意識向上や災害時の準備等に大きな役割を果たしている。地域コミュニティが弱体化すると危機的状況に対応する機能、さらに、地域の特色、文化、観光資源が失われることにも繋がる。加入率の低下により、地域コミュニティの核としての町会・自治会活動への影響が懸念される。価値観の多様化、単身世帯、外国人世帯の増加傾向の中で町会・自治会の維持を考えなければならない。
会長	6 番目の「地域コミュニティの活性化と協働の推進」について、積極的に参加する人、受け手になる人など、様々なプレーヤーがいる中で、行政として何が重要か、地域コミュニティの活性化にどう寄与できるかを考えなければならない。 それでは、本項目の検討は以上とするが、私からお願いがある。区の統合的アプローチについてはしっかりと考えなければならない。今日出た意見をこれから計画に盛り込むにあたり、区としてどう考えるかを、改めて区全体で議論した上で、計画に活かしていただきたい。
会長	2 その他 事務局から連絡事項があれば伺う。
政策企画課長	次回は、2月25日火曜日午後6時から、本日と同じこの会場で開催する。開催日近づいたら、通知を送付させていただく。

会長	起草委員の皆様には、1 週間以内を目処に、中間答申の素案について、別途調整をさせていただくので、よろしくお願いします。 政策分野別の検討が終了し、起草委員会でまとめられた中間答申の案を次回、我々が再検討する。良い議論をし、いろいろと計画に盛り込んでも、発信の仕方が重要であるので、文言や、漢字・ひらがななど細かい表記まで意識して、これまでの議論を振り返り、事前に配付される資料に目を通していただければと思う。 本日も長時間にわたり、ご協力感謝する。次回以降もよろしくお願いします。
所管課	政策経営部政策企画課総合計画係（電話 3 5 7 9－2 0 1 3）